

(1) 研究課題名 生薬「蒲黄」の皮膚再生能に関する科学的検証

背景

- ① 蒲の花粉を乾燥させたものが生薬の「蒲黄」である。
- ② 蒲黄の効能の記述は日本最古の歴史書である古事記の因幡の白兔伝説にまで遡る。
- ③ 古事記には蒲の花粉を皮膚に塗ったところ傷が元通りに治り再生した記述がある。
- ④ 古事記の記載以降、今日に至るまで傷の古代・民間医薬として使用され続けている。
- ⑤ しかし蒲黄の創傷治癒促進効果を科学的に検証した研究は全く無い。



目的

蒲黄の皮膚の創傷治癒促進に対する効果の有無を解析する。

方法

蒲黄の煎じ液をマウス由来真皮線維芽細胞(3T3細胞)に添加し、以下の促進効果の存否を解析した。

- ① 細胞毒性, ② *in vitro*の系で創傷治癒機構を反映する細胞の増殖能, 遊走能, 接着能の促進効果

結果・考察

- ① 蒲黄の濃度0.5%までは細胞毒性が無く、以後の実験において0.5%の条件下で解析した。
- ② 細胞の増殖能に対する効果を解析した結果、促進効果は認められなかった。
- ③ 細胞の遊走能に対する効果を解析した結果、促進効果を認めた。
- ④ 細胞の接着能に対する効果を解析した結果、促進効果も認めた。

蒲黄には細胞の増殖には作用しないが、細胞の遊走及び接着能を促進し、真皮線維芽細胞の創傷部への遊走と接着を促進することで、肉芽組織の形成を促して創傷治癒を促進させる可能性が示された。

以上の報告は、蒲黄の創傷治癒促進効果の初の実験的検証である。